

銀賞

自主保全元年

愛知製鋼株式会社

山本 航大

ご安全に！私たちは生産現場の第一線で生産をしているオペレーターです。毎日、日常点検を実施していますが、これがまた退屈なものでした。計器を見て範囲内であれば○を書く。範囲から外れていたら上司に伝えると処置方法や手順を教えてくれるので一緒に直す。とは言うものの、規定の範囲から外れることなどほとんどなく、毎日○を書くだけの○書き活動です。

そんな中、今年度より全社でTPM活動が始められ、上司から説明がありました。説明の中では、日常点検のこともありました。これまで私の中での日常点検は「範囲に入っているかどうか」でしかなく、周りが汚れているかなどは気にしたこともなかったのに、汚れがどうこうと言っていました。それまでの私は「壊れた設備を直すのは保全担当の人」と考えており、自分は「設備を運転して製品を作ることができていればよい」と考えていました。それでも、課の方針として活動が開始されたため、しぶしぶ活動を行うことにしました。

自主保全では「初期清掃」「復元」が大切であるとの説明を上司から受け、職場で「工場美化活動」が開始されました。まずは、毎週末30分の清掃時間を定めて全員で清掃を行いました。設備配管の上や裏側、設備の下側など、普段見ることがない個所にすごい量のゴミ（製品がこぼれた物）が積っていました。「こんなところに汚れが溜まるのは仕方ないことだ。普段掃除しないところだし」と、思っていました。

ところが、数週間掃除を続けていくと、なぜかいつも同じところから汚れ始めていることに気が付きました。これまで、全体が汚いときには気にならなかったことでした。「なんでだろう」と思い、汚れの元を探してみると、配管のボルトに緩いところがあり、そこからこぼれ出していることがわかりました。これを上司に報告すると、なんだかととても褒めてくれました。この不具合が見つかったことで、これまでロスしていた物がこの個所を直すことでなくなり、歩留もよくなるということでした。「TPMは生産性にも関係するんだ。設備が故障して止まることを防ぐだけがTPMではなかったんだ」と知ることができました。私には、まだまだ知識が不足していることを思い知ることができました。

私たちの職場では、今回の活動を機に職場全員で自主保全士1級の通信教育講座を受けることになりました。「勉強なんかするのは面倒くさいなあ」と思いながらも、班のみんなも一緒に頑張っているので「仕方ないからやるか」とコツコツやっていました。何度も面倒臭くなりましたが、周りのみんなもやっていることと、講座の進みが遅れると上司からチクチク言われることもあって、何とか最終試験に合格することができました。

嫌々始めた勉強でしたが、やっていくうちに、活動の最初に上司が言っていたことはこういうことだったのかと分かり、「なるほどなあ」と思うところがいくつもありました。点検や、清掃時に見つけることができる汚れには理由があり、それを放置すると設備の故障や、造った製品の品質までおかしくなってしまうことが自分でもわかってきました。

せっかく（無理やりにですが）、学んだ自主保全です。何かに役立ててみたいと思います。今年度の「工場美化活動」はまだ終わっていません。これから何個か不具合を見つけて直して見せようと思います。学んだことを活かして、「いいところ見せてやろう」今年是我的「自主保全元年」とします。